

か み きむらい づ か こ ぶん
上侍塚古墳

おあたわら ゆづかみ
栃木県大田原市湯津上地内

第3回現地説明会資料 令和5(2023)年3月4日(土)

栃木県教育委員会事務局 文化財課
宇都宮市場田1-1-20 TEL 028-623-3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市業 474 TEL 0285-44-8441
<http://www.maibun.or.jp>

栃木県では重要遺跡を調査研究・活用する「いにしへのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」事業として侍塚古墳の調査を進めています。本年度は昨年12月に上侍塚古墳の周溝(しゅうこう=古墳周囲の堀)の調査結果について、今年1月に墳丘調査の途中経過とくびれ部での成果について現地説明会を行いました。今回は、墳丘を中心に前回から引き続き調査を行っていた箇所のご紹介をします。

a 後方部西(N0西斜面トレンチ)

後方部西側斜面の葺石(ふきいし=古墳表面を覆う石)・三段築成のようす・江戸時代の盛土を確認しました。葺石は平坦部にはなく、斜面にのみ葺かれていたようです。また、斜面から転落した葺石とともに土器も出土しています。これらの土器は墳頂部に並べられていたと考えられます。これまで考えられてきた時期(4世紀後半)よりやや古い文様がある土器も出土しており、古墳が造られた時期について調査終了後も検討をしていきます。

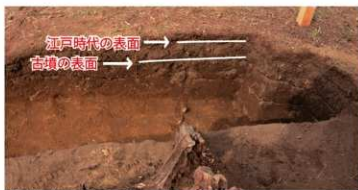
江戸時代の古墳修復に際しての盛土は薄くしか確認出来ず、多くは流出しているようです。



後方部西側斜面の葺石の様子(南西から)



後方部西側斜面の土器出土状況



後方部墳頂付近の断面(南から)

b 後方部南(E0南斜面トレンチ)

後方部南側斜面では墳丘の盛土と転落した葺石が確認されています。

後方部墳頂の西端及び南端では、江戸時代の発掘坑の範囲を確認するためにトレンチ(試掘溝)を設定しましたが、現在の調査範囲では確認出来ていません。このことから江戸時代の発掘は、今回の調査範囲よりも内側を掘り下げていることが推測されます。



後方部南側斜面の調査の様子(南から)

c 前方部南 (E18南トレンチ・E28南トレンチ)

幅約20mの周溝が昭和になって掘り返された痕跡が見つかりました。底面となる固い砂礫層が東にいくにつれ浅い位置で見つかったので、古墳の周溝も同じく浅くなっていくと考えられます。



前方部南側の周溝 (南東から)

